

特 許 願(()

昭和 49 年 4 月 9.日

Le de

1. 発明の名称

デンシ ドケイョウデンキ キ かげンかいキ

2. 范 剪 者

千葉県千葉市とてはし台5-28-1

3. 竹作出加人

東京都在東区電声6丁目31番1号 (252) 株式会社 第 二 前 2 答 代表取締役 厘 部 二 郎

4. 代 理 丿

東京都於谷区神宮前 2 丁目 6 番 8 号 (4664) 弁理士 母 上 連絡先 563-2111 内報 222~5 担告 長谷州

5. 旅附市知の日景

(1) (H) AH (S)

任

78° 1

49-040344

明 細

発明の名称

证子時計用電気機械転換機

特許登録請求の範囲

有芯コイルをムープメントの外周曲線形状に合わせてわん曲したことを特徴とする電子時計用世気徴機を換機。

発明の詳細な説明

本発明は水晶時計などに用いられている電気機械 転換機等に、その有芯コイルに関する。電気機械 転換機は第1図で示すように有芯コイルのに連結 したステータ8と、両ステータ8間に回転自在に 根支したロータRとよりなるが、従来、この転換 機の有芯コイルのは同図で示すように直線形状を しているので、ムーブメント M の外周が曲線形状 の場合には、外周との間に空間部8Pを生じるが、 この空間部SPは形状が変形である上に比較的狭 19 日本国特許庁

公開特許公報

①特開昭 50-135512

④公開日 昭50.(1975)10.27

②特願昭 49-40344

②出願日 昭49.(1974) 4.9

審查請求 未請求

(全3頁)

庁内整理番号

6781 +1 7408 24 6680 24

120日本分類

11 A 442 109 BU (1) Int. C12.

H02K 37/00 904C 15/00

いのでとれを有効に利用し難く、特に有芯コイルに関連する転換機部分のスペースが制限されるので電気機械転換機としての性能向上にとって障害となっていた。

本発明は上記のような欠点を解決しようとするもので、ムープメント内の空間を充分に利用して 電気根據転換機の性能を大巾に向上できると共に 小型時計の突現を可能とするものである。

(2)

2年和床

級された形状が有芯コイル2の内側と外側で同一ルとなどの利点がある。又は30万向Aがわれば2aはよび巻線方向Aがわれのは2aはよび巻線で、つかってはついてなって、のででなって、のででででである。となって、のででででである。となって、10位に一タ7のカナと噛合する地車を示してある。

本発明は叙上のように有芯コイル2をムーブメント1の外周曲線形状に合わせてわん曲してあるのでムーブメント1の空間を有効に利用できる。例えばアナログ型電子時計ではムーブメント中心に輸列が配置されているため、従来の転換器ではスペースが少くて小型時計の実現は大変に困難であったが、本発明ではムーブメント中心の輪列を

(3)

特朗 昭50-135512②

配置変更することなく転換機のスペースを増大出来るので小型時計の実現が可能となる。

製面の簡単な説明

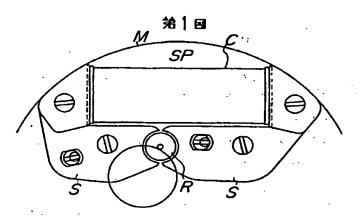
第1 図は従来の電気機械転換機の平面図、第2 図、第3 図は、それぞれ本発明に係る電気機械転換機の異類実施例を示す平面図である。

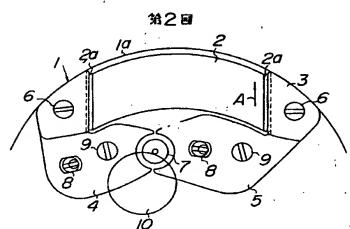
1 … ムープメント 1 a … 外 周 2 … 有芯コイル 5 … 磁 心

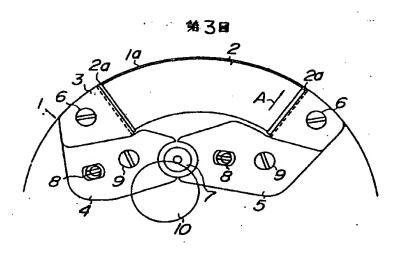
N F

代理人 彙 上









(4)

-52-

4 上記以外の発明者

特別 昭50-135512(3)

東京都自県区人製 5-9-15 東京都自県区人製 5-9-15 塚 田 伊 塩

(OLUSN) YNWY B 35KU SIHI